

第3回技術委員会（方法書第1回審議）での委員意見と事業者等の見解要旨

	区分	委員名	意見要旨	事業者等の見解要旨
1	全体	亀山	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントにおいて方法書段階で重要なのは現地調査に入る前段階である。特に文献調査については十分にやっていただくということであり、そこから全てが始まるとお考えいただきたい。 ・その段階であまり重要なものが無いと想定されたまま現地調査に入ることが一番危険であるので、ご指摘いただいたことについては方法書段階で全て文献を見ていただくことを原則としていただきたく、早急をお願いしたい。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書に向けては、市町村誌などの資料による既存文献調査結果も踏まえ、現地調査を実施する予定であります。なお、既存文献によるリスト（動植物の生息・植生が確認されている種のリスト）については、第6回技術委員会において報告します。
2	全体	片谷	<ul style="list-style-type: none"> ・複数都県にまたがる案件について、制度上各都県で別々にアセスを行わざるを得ないと思うが、予測評価について隣接県と異なる手法を取られることがあるか。とられる場合はどういう理由で異なるかということ、また次回以降にお答えいただきたい。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予測評価の手法については、基本的に隣接県と同様の手法を用いることを考えています。
3	4-2-1 4) 地形・地質	富樫	<ul style="list-style-type: none"> ・図面集に示す地形分類図や表層地質図の一部に空白部分があるが、資料収集不足であり、整備すること。 	<p>【第1回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・把握しているデータについてはしっかり整理して、予測、評価を進めます。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書に向けては、市町村誌などを含めた文献、資料を収集し整理します。なお、地形分類図及び表層地質図については、第6回技術委員会において報告します。
4	4-2-1 5) (動植物)	中村 (寛)	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の生息、植生及び生態系について、方法書の資料に若干不備がある。 ・方法書P82 表4-2-1-64「対象事業実施区域及びその周囲で生息が確認された昆虫類」に挙げられている種の根拠が「第2回自然環境保全基礎調査」のみであり、市町村誌などからの資料が挙げられていない。 ・「長野県環境影響評価技術指針マニュアル」では方法書にはリストを付け、その中から重要な動物類をリストアップするための根拠として2つ表を作ることとなっているが、それが無い。 	<p>【第1回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルについては、今回は条例対象アセスではなく法アセスとして整理をさせていただいています。 ・準備書作成の前段階において文献を詳しく取り上げ、収集した上で詳細な調査計画を立てることを考えています。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書に向けては、市町村誌などの資料による既存文献調査結果も踏まえ、現地調査を実施する予定であります。なお、既存文献によるリストについては、第6回技術委員会において報告します。
5	4-2-1 5) (動植物)	中村 (寛)	<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫類の文化財保護の分類について、方法書においては長野県文化財保護条例が使われておらず、チョウ目のコヒオドシやクモマツマキチョウ、ベニヒカゲがそれに該当するためかなり不備と考えられる。もう一度作り直しといたしますか、こういった形で作成されたかお教えいただきたい。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書に向けては、市町村誌などの資料による既存文献調査結果も踏まえ、現地調査を実施する予定であります。なお、既存文献によるリストについては、第6回技術委員会において報告します。

	区分	委員名	意見要旨	事業者等の見解要旨
6	4-2-1 5) (動植物)	中村 (寛) 大塚	<ul style="list-style-type: none"> 環境影響評価に携わる中で、方法書でこれだけ重要な種が挙げられていなくて、リストが無いものは初めて見た。次の委員会までには、必要な文献、特に市町村誌をリストアップして追加といった形で挙げていただきたい。 	<p>【第1回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査に入る前に文献調査をして対応いたします。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備書に向けては、市町村誌などの資料による既存文献調査結果も踏まえ、現地調査を実施する予定であります。なお、既存文献によるリストについては、第6回技術委員会において報告します。
7	4-2-1 5) (動植物)	大塚	<ul style="list-style-type: none"> 植物についても、この方法書には重要な種が挙がってきておらず、準備不足と感じている。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備書に向けては、市町村誌などの資料による既存文献調査結果も踏まえ、現地調査を実施する予定であります。なお、既存文献によるリストについては、第6回技術委員会において報告します。
8	4-2-1 5) (動植物)	大塚	<ul style="list-style-type: none"> P79 表4-2-1-62(1)において非常に重要な猛禽類が抜け落ちている。繁殖情報が確認された種を挙げているが、その場所で繁殖していたりいなかったりがあるため、対象地域に生息しているものを挙げていただきたい。ここではイヌワシとクマタカが抜けているので、見直しをしてリストに挙げていただきたい。特に猛禽類については冬場からの調査に早急に備えると思うので、全体の種のリストアップはお願いしたい。長野県内で明かりとなりうる部分ではイヌワシ、クマタカの生息が確認されているのでそういった種類を含め、猛禽類については現地調査をしっかりとやっていただきたい。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 希少猛禽類の種については第5回技術委員会で報告します。 希少猛禽類の現地調査については、定点観察法を基本として適切に進めていきます。
9	4-2-1 5) (動植物)	大塚	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査の場所がかなり少ないのではと危惧している。特に猛禽類については3kmの範囲を含め、生育の状況の確認なりを是非していただきたい。また工事の際に営巣等確認された場合は是非配慮していただきたいと感じているので、ご対応いただきたい。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 希少猛禽類の現地調査については、定点観察法を基本として自然環境の状況等を考慮し、専門家等の助言を踏まえ、猛禽類の生息状況を適切に把握できる地点を選定しています。 営巣が確認された場合は、調査結果に基づく猛禽類の行動等を分析し、専門家の助言を踏まえ、保護方策を検討いたします。
10	4-2-1 5) (動植物)	亀山	<ul style="list-style-type: none"> 猛禽類については繁殖情報が確認された鳥と言われるより、繁殖情報が確認されていないが生息する可能性があるものが非常に多いので、その視点で拾い上げて対応いただきたい。調査が名ばかりで済まされてしまうことが懸念される。長野県は貴重な猛禽類が非常に多いので、十分調査していただきたい。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 希少猛禽類の種については第5回技術委員会で報告します。 希少猛禽類の現地調査については、定点観察法を基本として適切に進めていきます。

	区分	委員名	意見要旨	事業者等の見解要旨
11	4-2-1 5) (動植物)	佐藤	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域における植物、地形、生き物は異なるため、まず市町村の生物リストをきちっと挙げ、地形の違いを把握し詳細に比較し、地域ごとの予測評価を行う必要がある。 ・まず地域植物誌、地域動物誌を明らかにすることで大きな違いが見えてくると思う。長野県の自然保護をできる状態でやれる方法を探っていたきたい。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書に向けては、市町村誌などの資料による既存文献調査結果も踏まえ、現地調査を実施する予定であります。なお、既存文献によるリストについては、第6回技術委員会において報告します。
12	5-2 (水環境)	花里	<ul style="list-style-type: none"> ・水域への影響を懸念しており、要約書P25 表5-2-1においてアルカリ排水を放流する場合、必要に応じて濁水処理対策により記載されているが、どういう場合が必要かということをもう少し具体的に記述していただきたい。またアルカリ排水の場合は中和すると思うが、濁水処理というものはがどんなものか、具体的に分かりやすく書いていただきたい。 	<p>【第1回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域で定められた排水基準に基づき、pH、濁度等について基準以下まで中和処理、濁水処理等を行います。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・濁水処理は、一般的な凝集沈殿又は濾過処理等を考えていますが、具体的な処理方法は状況、程度に応じて検討していきます。
13	7-2 (水質)	花里	<ul style="list-style-type: none"> ・要約書P48の表の中の環境影響評価項目の水環境の水質、水の濁りと水の汚れがあるが、汚れとは化学物質による汚染を言うのか。そうであれば具体的にどんな化学物質について調べるなどということを明確にしたほうが良いと思う。 	<p>【第1回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の汚れについては、コンクリート打設により発生するアルカリ排水を想定しており、具体的にはpHを調査項目としております。
14	6-3 行政機関からの 意見と事業者見 解	花里	<ul style="list-style-type: none"> ・トンネル工事で地下水が出てきて水源等の減水や枯渇が懸念されるということだが、自然由来の有害物質、重金属、砒素などについて調べる必要があるのではないか。またそういったものが出てきた際、簡単に一般環境に漏れ出すのは良くないのではないか。そのあたりの検討を盛り込んでいただきたい。 	<p>【第1回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事施工中に土壌等自然由来の汚染について調べていくことを考えております。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トンネル工事に伴い重金属を含む鉱物が確認された場合は、排水の重金属調査を行うとともに、周辺民家、集落等の地下水への影響を把握します。なお、基準不適合土壌が発見された場合は、土壌汚染対策法に基づき適正に処理します。
15	7-2 (水象)	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・水象に関して記述が少ない。影響を受ける河川や地下水の量的な把握をしておくべき。また、水資源についても量が大切であるので調べて頂きたい。特に温泉資源について何も記述がないので、加えて頂きたい。 	<p>【第1回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法対象事業であることを踏まえ、方法書には国、県レベルの既存文献で調べられる範囲の内容を記載しました。今後の調査では、地元自治体等からの情報も踏まえ進めてまいります。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書に向け、予測、評価に入る前に市町村誌を含めた水資源関連の文献、資料を収集し整理します。
16	7-2 (水象)	富樫	<ul style="list-style-type: none"> ・水源回避がなされるかは、詳細なルート設計が分からなければ論ずることはできないが、いつ分かるのか。 	<p>【第1回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境影響評価と並行して計画の具体化を図ることを考えているため、準備書段階でルートを明らかにし、水源等への影響の予測・評価を行ってまいります。

	区分	委員名	意見要旨	事業者等の見解要旨
17	7-2 (騒音・振動)	塩田	<ul style="list-style-type: none"> ・地盤の堅さにもよると思うが、発破を使用する可能性が高いのではと思うため、最初から影響の調査項目に加えておくべきではないか。 	<p>【第1回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には機械による掘削を考えておりますが、地山の状態や工事の施工方法によっては機械と発破を併用することもあるため、発破により環境に影響を与える恐れがある場合は、検討します。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トンネル工事において発破を使用する場合は、装薬量の低減や施工場所に応じた発破工法を検討して実施します。また、必要により、トンネル防音扉の設置等の保全措置等を講じてまいります。
18	7-2 (騒音・振動)	塩田	<ul style="list-style-type: none"> ・トンネル掘削工事の際の土砂搬出に使用されるトラックの台数等は把握しているか。土砂搬出の際のトラックの走行速度をある程度想定して騒音・振動等の影響を把握すべき。 	<p>【第1回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発生土の量がある程度確定したところで、工事計画においてトラックの走行台数、経路等を検討することを考えています。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書において、トンネル掘削工事の際の土砂搬出に使用されるトラックの台数や、土砂搬出の際のトラックの走行速度を設定し、騒音・振動等の予測を行います。
19	7-2 (大気)	片谷	<ul style="list-style-type: none"> ・気象観測の期間について、4シーズン1週間ずつというのは予測評価のデータとして使うには明らかに足りないので、全地点とは言わないが、予測評価に使えるだけの通年データを得られるような観測を入れていただく必要がある。またブルームパフモデルにより大気予測を行う予定であるが、今回の事業のような急な地形においては平地用のモデルの予測だけでは不十分であるので、急な地形の予測はどのようにされるのかを次回以降にお教えいただきたい。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別紙「1-1」「1-2」を参照
20	7-2 (地形・地質)	富樫	<ul style="list-style-type: none"> ・環境影響評価項目として地形地質を工事施工ヤードや工事用道路の設置に限定するのではなく、地形改変を伴う切土工事やトンネル工事等においても考慮すべき。 	<p>【第1回審議での回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切土工事やトンネル工事等は、工事中も供用後と併せて、工作物の存在の中で総合的に評価することを考えております。 ・環境影響評価項目は、国土交通省令に基づいて選定しており、地形・地質に関しては、工事の実施において工事の施工ヤード及び工事用道路の設置について、予測・評価を行うこととなっています。